

寺尾第二地区民生委員児童委員協議会 令和8年1月～3月までの取り組み



地区社協の行事は、地域福祉の牽引役として、事業や行事の企画・運営に民生委員児童委員が中心となって携わっています

地域福祉の増進に努めるものとして..

福祉保健講座第三講

今から始める食習慣

一食で育む親子の絆

2月26日(木)、幼少期の食習慣を楽しく学べる食育講座を開催しました。寺尾第二地区のヘルスマイトさんに、子どもの成長に大切な栄養や、親子で食べ物に親しむアイデアについて、わかりやすく講義していただきました。最後に、ヘルスマイトさんによる簡単おすすめメニューを全員で戴きました。



親子一緒に“野菜のお話コーナー”もありました。本物の大きな大根・人参・ゴボウを見て子供たちは興味津々の様子でした。その後、その三つのお野菜が、みんなで食べたけんちん汁に、美味しくなっていました♡



講座の間、お子さんはキッズスペースで、民生委員児童委員が見守っているので安心です！受講者の方にも好評です。



*講座の間に、民生委員が調理した食事を参加者の方にお出しします。

～ 参加された皆さんの声 ～

- ・目安の考え方、すごく良かったです。参考になりました！
- ・お肉が苦手な娘が、鶏肉をたくさん食べたので、うちでも作ってみます
- ・野菜そのままの味がとてもおいしかったので、家でも作ってみたいです
- ・薄味でもこんなに美味しくなるなんて驚きました
- ・ゼリーがかわいかったです
- ・子どもをキッズスペースで見守って下さり、久しぶりにじっくり学ぶことができました
- ・野菜そのままの味がとてもおいしかったので、家でも作ってみたいです

第3回 せせらぎ祭り

3月29日(日)、「第3回せせらぎ祭り」を馬場地域ケアプラザで開催しました。咲き始めた桜のもと、大勢の方にご来場いただきました。今回は、民生委員・児童委員を中心に婦人部、保健活動推進員、地域の方々のハンドメイドコーナーを充実させ、心のこもった作品がたくさん並びました。また、ステージ発表や展示コーナーも設けて、日ごろの成果を多くの方に楽しんでいただきました。



開始と同時に、大勢の方が手作りコーナーにいらして下さり、大賑わい(#^_^#)



民生委員の手作りバックは、大人気！次々とご購入いただき一生懸命に縫った甲斐がありました。心を込めて編んだ布ぞうりも多くの方に喜んでいただきました。



販売

炊き込みご飯は、具材の旨味がご飯に染み込み、ほっとする味に仕上がりました。お土産に大勢の方がお買い求めくださいました。

喫茶

美味しいケーキと温かい飲み物でホッと一息！



地域の方にもたくさんの品をご提供いただきました。

ホッカホカ
良い香り



地域の相談役として..

障がい理解のための講座
認知症理解講座その他研修講座の運営と参加

障がいの理解講座

～気になる子の理解とかかわり方～



スマホ育児、チャット GPT が相談相手という現代子育ての中、お子さんの心身の発達が気になるという悩みを抱えている親御さんが増えています

横浜市東部地域療育センターのソーシャルワーカー、柳田めぐみさんが「気になる子の理解とかかわり方」について講演してくださいました。

*彼らのつまずきを理解する

乳幼児期は「子どもが大人に理解される」体験が何よりも大切であり、安心できる関係づくりが子どもの心を育てる。生活に支障をきたしている困難＝発達障がいの特性は適切に関わり育てていくことでつまずきが気にならなくなるくらい成長する。

*効果的にやるべきことを伝える

「〇〇しなさい」「だめ」を使わず、肯定的な言葉で本人に何をすればいいかわかりやすく伝える。失敗させて教えるではなく、できたことを褒め、成功から学んでもらう。「すべてできたら褒める」でなく、25%できたら褒める“25%ルール”を意識する

*親は「こうあるべき」と考えすぎない

親だって失敗することもある。反省・成長を繰り返しながら、自分でできることをできる範囲でやる子どもは親が褒めるが、大人は自分で自分を褒める工夫が必要。

～ほどよい親でいきましょう～

Good Enough Mother

柳田めぐみさん提供資料より-抜粋

認知症サポーター養成講座

～基礎編～

1月30日(金)寺尾地区センターにおいて、認知症サポーター養成講座～基礎編～がありました。

キャラバンメイトの八木さんの講話は、新しくなったテキストを使用した講座となりました。これまでは、「認知症とは何か」「その症状とは・・・」といった概念的なものから学んでいきましたが、今回のテキストは、“認知症”を「他人ごとではない自分ごと」としてとらえることから始まります。認知症は怖いもの、認知症になるとなにもわからなくなるのではないこと。認知症である本人が誰よりも先に変化を感じ、もっとも不安な気持ちであることを理解することから始まります。

早期発見、早期治療あるいは周囲の人たちのかかわり方によって、症状の進み方を遅らせたり、改善したりすることも可能です。そして、そのことを正しく理解することが大切です。最近では、認知症になっても、自分らしい生き方を続けていらっしゃる方が大勢いらっしゃいます。

その後、認知症になった高齢者のいる家族の日常が克明に描かれたDVDを視聴しました。参加された方々も感銘を受けました。



キャラバンメイトの話を熱心に受講

鶴見・あいなっと 第5期計画（令和8年～令和12年度）

キャッチフレーズ みんなの思いや 心が見える まちづくり

1. 思いやりや 心づかいを行動に移して つながるまちに
 - ① 地域の子どもたちの声を聞き、取り組みを実現する
 - ② 多世代交流会を開催し、子どもたちを地域で見守り育てる
 - ③ 地域の見守り活動を、一人ひとりに知ってもらう
2. お互いに認めあい 支えあいながら 地域力を高めよう
 - ① 世代を超えた連携で、防災意識を高める
 - ② 多世代交流を通じて、安全で安心して暮らせる私たちのまちに
 - ③ 障がいを理解し、誰もが暮らしやすいまちに

*キャッチフレーズは、小・中学生と共有しています

第2回 LCT！開会式



子どもたちの
思いを実現！

